

本の森

11月号



丹波篠山市立中央図書館通信 No. 195 2021年11月1日 発行

今月の特集

秋の夜長に 気になっていたあの本を読もう

10月27日～11月9日は読書週間。
今年の標語は『最後の頁を閉じた 違う私が出た』
ずっと気になっていたあの本、読むなら今です。

『賢い子はスマホで何をしているのか』

石戸 奈々子 著 日経BP日本経済新聞出版本部 375.19 円



eスポーツ（エレクトロニック・スポーツ）の設立からはや10年。小学校では2020年度からプログラミングが必須科目となり、コロナ禍に於いてはテレワークやオンライン・オンデマンドが主役を務める。今や人々の生活とデジタルデバイスは切っても切り離せないもの。

東京大学工学部卒業後、米国マサチューセッツ工科大学を経て、2002年NPOを立ち上げ、日本のデジタル教育を先導してきた著者。本書では子供とスマホ（デジタル）と親との関係を紐解き、教育という観点から

『「子どもにスマホは絶対ダメ」、その価値観のままに本当によいのだろうか?』と一石を投じています。

ずっと気になっていたこの本。ちなみに表題の回答は……。子育て世代の方に、デジタル社会の考え方の一つとして参考になり得るであろう一冊でした。

今月の特集コーナーでは様々な方面から気になる本を集めてみました。どうぞ秋の夜長の読書タイムにお役立てください。（酒井）





マークデザイン
加藤昌男

文学の棚から

『「お化け」と「ことば」のあやしいはなし』

京極 夏彦 著 文藝春秋 914.6キ

妖怪小説家である著者の講演をまとめたこの本の内容は、お化けだけでなく、言語、日本文化、町おこしにサブカルチャーと多岐にわたります。しかし、それらがバラバラに語られることはありません。多くのテーマを巧みな例えを交えつつ、分かりやすくまとめて結論まで導き出すそのさまは、著者の小説の中で複数の事件がやがて一本につながる、という展開を思い起こさせます。

また「どんな本も面白がろうとすることが大事」「悲しいことやつらいことはみんなお化けのせいにはできる」など、著者独自の切り口の言葉が満載。「はじめに」で「お読みになったら、お忘れください。」と書いてありますが、そうはできない内容の一冊です。 (西澤)



『農家が教えるタネ採り・タネ交換』

農文協編 農山漁村文化協会 615.23/ノ

一般書の棚から

タネには、現在では主流となった交配種 (F1) と、昔からの固定種 (在来種) があります。近年の種^{しゅびょう}苗法の改正により、タネ採り全般が規制されているように誤解されがちですが、農家の自家採種で禁止されたのは全体の5%で残りの95%は自由です。固定種のタネを採り続けると、その土地に合ったタネになってゆき、おいしくなってくるそうです。

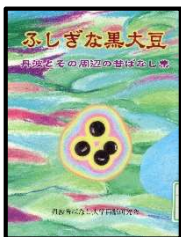
本書は『現代農業』に連載された記事が再編集されたものです。交雑しやすいアブラナ科は植える配置が重要なことなど、タネを蒔くときからの注意点も書かれています。写真も多く、タネ採りのタイミングや方法、採種したタネの交換会のことまでわかりやすく説明されています。比較的簡単なものからチャレンジし甲斐のあるものまであります。 (栗田)



郷土資料の棚から

【たんばささやま「まめ」知識】

このコーナーでは、丹波篠山にまつわる本を紹介します。



「ふしぎな黒大豆
丹波とその周辺の昔ばなし集」
丹波昔ばなし大学再話研究会
(郷土) E5/00/タ

本書は「丹波昔ばなし大学再話研究会」により、地域で語られていた昔話、また数少なくなった語り手から聞き及んだ話が、土地の言葉や丹波地方の言葉で再話されたものです。

編集後記には「私たちの先祖は、生きていくための知恵や勇氣、人間の持つ普遍的な願望や思想を昔話に込めて語り継いできました。

(中略) 今、困難な時代を生きる子どもたちに、昔話の楽しみとともに、昔話に込められた大切なメッセージが届くことを願っています」と綴られています。

秋の夜長、昔話で家族団^{だんらん}樂というのはいかがでしょう。 (酒井)

Y onde M ite

よ ん で み て

『Yonde Mite』のコーナーでは利用者の方から寄せられたお勧めの一冊を掲載します

『革命前夜』
須賀 しのぶ 著 Fスガ
2015.03 出版



ピアノの勉強をし、演奏家として一人立ちするために東ドイツの音大に留学した主人公は、東ドイツの崩壊に立ち会うこととなります。感動しました。

ペンネーム 穂高 隆

『もっと知りたい
川瀬巴水と新版画』
滝沢 恭司著 732.1 夕
2021.06 出版



浮世絵版画という木版特有の日本の伝統美の上に、大正・昭和の近代美が加わった「新版画」。かのスティーブジョブズが収集していたことでも有名です。

ペンネーム MOON

『とわの庭』
小川 糸 著 Fオガ
2020.10 出版



帰ってこない母を一人で待ち続ける主人公。彼女を支えたのはピアノと雑巾と犬のジョイだった。

ペンネーム S

『憲法九条は世界遺産』
古賀 誠 著 323.14 コ
2019.09 出版



なぜ、憲法九条を「世界遺産」と呼ぶほど大切にしておられるのが良く分かる。特にあとがきに共鳴。

ペンネーム 周五郎ヴァン

『ゼアゼア』
トミー オレンジ 著 933.7 オ
2020.12 出版



アメリカ図書館賞、ヘミングウェイ文学賞を受賞し、ニューヨークタイムス紙の今年読むべき 10 冊にも選ばれた本書。アメリカインディアンの話です。

ペンネーム 穂高 隆

『星戀』
野尻 抱影・山口 誓子 著
B914 ノ 2017.07 出版



星を愛する俳人と民俗学者が、交互に綴った夜空に捧げる俳句と随想。星の美しさに気づかせてくれます。

ペンネーム 千里 隼人



映画上映会のお知らせ

入場無料
申し込み不要

「黄色いリボン」

1949年・アメリカ 104分・吹替

- 監督 ジョン・フォード 監督
- 出演 ジョン・ウェイン 他 出演
- 日時 11月12日(金) 14:00~15:45
11月13日(土) 15:00~16:45
- 場所 中央図書館 視聴覚ホール

1876年。西部の白人達は、一斉蜂起したインディアン種族のために苦境に立たせられた。プリトルス大尉は、老齢のためあと6日で退役の身であったが、最後の奉公としてシャイアン族の掃討作戦を指揮することになった。タイリイ軍曹を先導として軍を進めたが、1千に余るインディアンに追尾されていることが分かった…。

入館時にはマスクの着用をお願いします！

図書館カレンダー



行事予定



日	月	火	水	木	金	土
	1 休	2 休	3	4	5	6
7	8 休	9	10 図書館の日	11	12	13
14	15 休	16	17	18	19	20
21	22 休	23	24	25	26	27
28	29 休	30 休				

中央図書館 (展示ホール)

- ★篠山養護学校 「ささよう展」
10/29(金)~11/5(金)
- ★絵画教室学美隊
丹波篠山市内児童の絵展示
6(土)~12(金)
- ★丹波篠山市消防本部 防火ポスター展示
13(土)~20(土)
- ★味間地区まちづくり協議会 ポスター展示
23(火・祝)~26(金)

インフォメーション



この月、暦の上では立冬。まもなく丹波地方にも寒い冬が訪れます。さて、12月にはお待ちかねの「としょかんまつり」と「クリスマスウィーク」が開催されます。今年も、利用者の皆様にご参加いただきたい催しを、数多く準備していますのでどうぞ協力ください。

また、入館の際には引き続き『マスクの着用』と『アルコールでの手指消毒』をお願いします。一丸となって、寒さにもコロナにもインフルエンザにも負けない冬を迎えましょう。

本が嫌いなモノ

食べ物、飲み物、匂い(タバコ・香水)、雨

食べながら、飲みながら、タバコを吸いながら…。ながら読書はやめましょう。